

1/31 毎日

ワクチン供給いつ?

新型
「ワクチ

ン接種をめぐり、実務を担う自治体が対応に苦慮している。「3月下旬」とされた高齢者への接種の開始日がずれ込み、多くの自治体が医療従事者や接種会場を確保できぬ現状にあることが、毎日新聞の調査で判明した。前例のない大がかりな接種に向けて、自治体は試行錯誤を余儀なくされている。(1面参照)

接種の開始時期が変更されるようになった今月下旬、東京都板橋区の担当者は対応に追われた。厚生労働省は当初、高齢者への接種を「3月下旬」に開

新型コロナウイルスのワクチン接種会場での運営訓練で行われたワクチン注射の訓練=川崎市幸区で27日、梅村直承撮影

始すると想定。同区はその時期に間に合つよう、接種の場所を一部決めていた。しかし、「4月1日以降」との方針が示されたため、同区はワクチン接種計画を見直し、予算案も修正することになった。

国は、接種を始めた日から9週間以内に高齢者の1回目の接種を終えることを求めている。人口約57万人の板橋区の場合、対象となる高齢者は約13万3000人と少なくない。しかし、現時点ではワクチン接種時期だけでなく、供給量も決まっていない。同区の担当者は「接種体制を決める上で、正しい情報を早期に示してほしい」と訴える。

一方、千代田区も国からの情報が少ないことで、準備に影響が出ることを懸念する。



新型コロナウイルスのワクチン接種会場での運営訓練で行われたワクチン注射の訓練=川崎市幸区で27日、梅村直承撮影

日程決まらず自治体やきもき

調査では、ワクチンの供給

時期などが未定のため「接種開始日なし」を示す必要のある区民への周知案内の印刷や郵送が遅れる可能性がある」と指摘。接種を開始する一ヵ月

以上前には「ワクチンがない」と何度も供給されるのかを明らかにすべきだと強調した。

一方、京都市は過疎地で暮らす高齢者や身体障害者など、移動が難しい人への対応に頭を悩ませている。医師や看護師が山間地に出向いてみると想定され、同市は予算や事務作業の追加負担が生じると見込む。

ワクチンを扱う難しさもあ

る。江戸川区は「ワクチンを保管する冷凍庫を設置・管理できる医療機関の確保が難しい」と明かす。ワクチンは接種会場ごとに配達する見通しだが、その作業は自治体や医療機関が担う。担当者は「小分けにしたワクチンの管理台帳の作成や事務作業が(新たな)負担となる」と懸念する。

港区は、接種会場でのワクチンの残量をリアルタイムで確認し、使用量に応じて、予約の上限を設けるべきだと指摘。「接種票にQRコードをつけて接種後に読み取るなど、正確に残数を管理する仕組みが必要だ」と提言した。

一方、接種を競ぐ国の姿勢をけん制する声も寄せられた。ある自治体の担当者は「迅速さは重要だが、ワクチン接種は命に関わる。自治体間のスピード競争をさせないように、国から安全第一を全国に指示してほしい」と訴えた。

【内橋寿明、黒川晋史】